



ねえ 勉強している？



などと聞かれて「うん。やってるよ！」と答える人は周りにいるだろうか？ もちろん本当は必死に勉強していてもそんなことは言わないのかもしれない。でも、眼の下に隈を作りながらも にこっと笑って言いはなつてほしいな。「勉強？ めいっぱいやってるよ！」と。とにかく笑顔で言えるのが理想。そんなの無理だと思うかもしれないけど、have to study から must study に気持ちを変えることから始めてみよう。

定期試験前だから

勉強するのはあたりまえ？ まあ、確かに定期的に学習内容を復習してまとめ直すことは絶対必要ですよね。そうしないと どんどん忘れていくし、体系立てて考えられないし…。次の段階につなげていくための地ならしというか、知識の整理整頓をこのチャンスにきちんとやっておきましょう。どうも良い点数を取ることにしか目がいかない人も多いけど、本来の目的は脳の中に学習のネットワークをつくり短期記憶をいかにして長期記憶に移行させるかの訓練だから、これからこの知識を生かしていくことを目標に勉強してみてくださいね。だから

定期試験も模擬試験も終わった後の対応が肝心！

テストの点数だけを見て終わりにしてしまう人は さすがに水戸二高にはいないだろうけど、自分の学習方法を見直す良い機会です。単なる記憶力の問題はさておき、思考力や理解力を問う問題でできなかったところは予習や授業で自分なりの“問題意識”をもてなかった部分が多いはず。(この言葉は問題点を指摘して非難することでは決してないので誤解の無いように) “問題意識”とは、多くのことに純粋な興味を持ち、今何が必要なのかを常に考えていることで、これがなければ、新たな発見もなければ、知識の結びつきも起こりにくいし、せっかく集めた知識を生かすこともできないでしょう。

テストの点数だけを見て終わりにしてしまう人は さすがに水戸二高にはいないだろうけど、自分の学習方法を見直す良い機会です。単なる

今学習していることが将来何に結びつくかはわかりません。でも“問題意識”の高い

人であれば、きっと知識を無駄に貯めるのではなく、何かと結びつけて生かしていけるんです。

テストの後には、必ず自分に足りなかったものの見方考え方に気づけるように見直して下さいね。それに

勉強は自分のためだけにするんじゃない

勉強も、自分のためだけにやっていると根気が続かないものです。自分のためだけなら今の自分の「らしくいたい」気持ちに負けてしまうもの。部活で苦しい練習に耐えられるのも、自分だけじゃない仲間のためにも頑張れるから。

そこで勉強もこう考えてみてはどうでしょう。あなたが今苦しんで勉強していることが、いつかきっと誰かの幸せにつながるんだと。勉強で鍛えられた未来のあなただったら、誰かの命を救えるかもしれない。苦しんでいる人の心を助けてあげられるかもしれない。新しい才能を育てあげられるかもしれない。みんなのために制度を変えることだってできるかもしれない。

あなたたちなら きっと みんなのために大切なこと、必要なことができる人になれると 信じてます。

5月, 6月 進路関係行事

5月22日(土) 全学講座①

25日(月) 看護一日体験 申込締切

26~28日 第1回定期テスト

6月1日(火) 更衣

3女子大合同説明会(3学年対象)

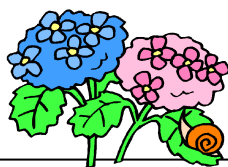
5日(土) 6日(日)

進研マーク模試(3年)

17日(木) 進学講演会(3年)

19日(土) 全学講座②

29日~ 3年 保護者面談期間



大学で何を学ぶ?

さて、これからまだまだ勉強を続けていこうと思ったときに、大学に進学してもっと自分の興味のある専門の分野を学ぼう…と、これが本来の流れのはず。でも現実問題としては、とりあえず大学にでも行っておかなければ…と考えている人も多いでしょう。しかし実のところ、大学というところは「なんとなく」行ってもあまり役に立つところではありません。

やはりここでも“問題意識”がないとただ漫然と時を食い潰すしかないおそれがあります。せっかく時間とお金を使って行くのですから、自分を大きく成長させるのにふさわしい舞台を選びましょう。また、流行や宣伝のうまさに騙されないように。もし将来の職業と密接な学部学科を選ぶなら、自分の適性についても客観的に検討しましょう。就職率がいいからと行ってしまった学科で学ぶうちに自分に合わないと感じ、退学してしまう人もいます。ある分野で頑張っていくためには、そのことが「好きだ」という気持ちが何よりも味方になりますが、適性というのも侮れません。但しこの2つはリンクしていることが多いのもう一度自分のことをよく観察し直してみてください。

志望大学・学部選び方

■「大学でなにがやりたいか」が決まっている人は、それができる大学を探そう!

コレをやりたい、追究してみたいと、大学に行く目的が固まったら、次はそれができる大学、学部・学科を探す段階です。ですが、ちょっと待ってください。その「やりたいこと」はあなたが本当に興味を持っていることですか?まさか「なんとなく」レベルの意識ではありませんよね。

自分の興味に基づいた目標が定まっているなら、さっそくそれができる大学をリサーチしましょう。「大学案内」は、大学選び、学科選びのベストツール。教室や進路室にある案内雑誌をとにかく熟読してください。最近ではホームページへアクセスなんていうことも珍しくなくなりました。とにかく、詳しく知ろうとする姿勢がポイントです。

■まだ決まっていない人は…

自分の興味を見つけたり確かめたりするには、逆に「この大学で何ができるのか」を知るというのも一つの方法です。そして何ができるかを、その大学・学部のキーワードから探っていくのです。「逆引き…」や大学受験関係のインターネットサイトからも検索できます。選択したキーワードに沿って何ができる大学かを調べていく過程で、興味のある分野が見つかり、それが大学に行く目的意識につながることもよくあります。

■自分のやりたいこと、興味を覚えることを出来るかどうか問題！

大学の、そして「大学案内」の最重要チェックポイントは、その大学で「自分のやりたいことができるか」、あるいは「学ぶ内容に興味を覚えるか」ということです。後悔しない大学選びをするためには、これは欠かせません！

■学部・学科内容やカリキュラム、そして研究室を調べる。

学部・学科の内容やカリキュラムは、君が何を学べるのか、何を追研究しているのかを示してくれる最重要ポイント。ゼミや研究室の内容までわかれば、かなり具体的に分かってくるはず！

■自分の目で確かめてみたい！

オープンキャンパスや公開授業などの機会を利用して、志望大学を「自分の目で確かめる」のも大変有効な方法です。受験情報を得られる場合もありますし、何よりその大学の雰囲気を確認されることは大変なメリットです。百聞は一見にしかず！キャンパスの環境も把握できますし、そこで何ができるのかを肌で感じることもできます。

■4年後の大学院まで視野に入れて学科選び。これもひとつの常識。

今の時代、大学で四年間学んでみてから、もっと勉強したい、テーマを突き詰めてみたいと、そこで初めて大学院を志す、という人のほうが少数派。特に法学、教育学では大学に入る前から、大学院進学を視野に入れている人も多いのです。

■入試データは、あくまで最終チェック事項。模試の偏差値だけで大学を決めるなんて、もっとも失敗する大学選びのパターン。各大学の入試結果データも、あくまで最終チェック事項。「この大学を受ける」という目標が決まった人だけがチェックする、あくまでも受験勉強の指針だということをお忘れなく！

